

= 諸報 =

国立大学フェスタ 2011「北見工大図書館ガイドツアー」を開催

(情報図書課)

9月26日(月)から10月7日(金)まで、国立大学協会の主催する国立大学フェスタ2011の一環として、市民の方を対象に「北見工大図書館ガイドツアー」を開催しました。このツアーは教員や学生だけでなく、市民の方も本学の図書館を利用していただけられることを広く知ってもらうために企画したものです。期間中、土日を含め毎日11時と15時からの2回ずつ開催しました。

職員が実際に図書館の中を案内しながら、設備や蔵書構成、そして本の探し方を紹介するという約20分間のガイドツアーです。当日の新聞の閲覧や飲食もできるコミュニケーションホールの紹介、図書館利用証を使った入館ゲートの通り方、配置場所毎の

図書・雑誌の紹介、そしてOPAC(蔵書検索システム)を使用した本の探し方や利用上の注意点を紹介していきました。

「経済の伝書鳩」「読売新聞」「北海道新聞」にも紹介記事が掲載され、37名の方に参加していただきました。参加された方からは、「大学の図書館が一般の人でも利用できるとは知らなかった」「専門書だけでなく、文学関係の図書や一般の雑誌もあるのは嬉しい」「放送大学の教科書やDVD等のAV資料も利用してみたい」「英語の多読資料(簡単な英語で書かれた絵付きの薄い本)を是非使ってみたい」といった声をいただきました。



ガイドツアーの様子

父母懇談会（秋季・北見、札幌、東京）を開催

（学生支援課）

例年開催している「父母懇談会（秋季）」を、北見会場は10月1日（土）本学講堂、札幌会場は10月15日（土）北海道大学学術交流会館、東京会場は11月19日（土）学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

北見会場には、69組93名の父母が参加し、全体説明会において鮎田耕一学長の挨拶、近藤和雄学生後援会会長の活動状況報告があった後、田牧純一副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。また、会場前においては、大学認定商品の菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大変好評を得ています。

札幌会場には、91組122名の父母が参加し、全体説明会において、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、近藤学生後援会会長から後援会の活動状況が報告されました。

東京会場には、76組100名の父母が参加し、全体説明会において、田牧副学長から札幌会場と同様の説明がありました。また、谷浩二同窓会関東支部長から同窓会の活動状況が報告されました。

札幌、東京いずれの会場とも、個別面談では、修学状況、就職等について父母から質問が出され熱心にやりとりが交わされました。また、全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が父母からの質疑に応答する時間を設け、大学生活、生活環境、就職及び大学院への進学など多岐に亘り質疑応答が行われました。



個別面談の様子（札幌）



全体説明会の様子（東京）

消防訓練の実施

(施設課)

10月25日(火)、本学社会環境工学科2号棟を仮想火元とした消防訓練を実施しました。

訓練は学生及び教職員あわせて約100名が参加し、北見地区消防組合消防署の指導の下、4階研究室のストーブから出火したという想定で第一発見者である学生からの通報、学科教員による初期消火、避難誘導および残留者の確認、負傷者の搬出という流れで行われ、建物内からの避難は10分ほどで完了しました。その後、はしご車による屋上からの避難や屋内消火栓を使った放水訓練、消火器の取り扱いについての指導があり参加者たちは積極的に訓練に参加していました。

訓練終了後、北見地区消防署 岡田副署長から訓練内容について、概ね良好との講評をいただきました。

講評にあわせて東日本大震災に触れ「地震が発生した後、多くの人が大したことはないだろう、自分は大丈夫だといった思い込みにより甚大な被害が発生してしまいました。災害に対しては常に最悪の想定をして行動してください。また災害が発生した時に被害をゼロにすることは困難ですが自助・互助・公助によって減災することは可能です。いざという時には周囲の人達と協力するようお願いいたします」と参加者に向けて協力依頼がありました。



はしご車で屋上から避難する学生



屋内消火栓からの放水訓練



消火器の取り扱い訓練



講評を受ける参加者

日本政策金融公庫旭川支店と産学連携の協力推進に関する

覚書締結

(研究協力課)

本学地域共同研究センターは10月18日(火)、同センターにおいて株式会社日本政策金融公庫旭川支店との間で「産学連携の協力推進に関する覚書」の調印を行い、川村彰センター長と川又一三支店長が覚書を取り交わしました。

この覚書は、相互に協力して本学の研究成果等を地域社会に一層円滑に還元し、緊密な情報交換等を行うことにより地域の産

学連携を推進することで、地域社会の発展に貢献することを目的として締結したものです。

地域企業の技術ニーズ情報及びそれらに対する本学の研究シーズ情報を交換して新たな連携の創出を図る他、本学が有する知的財産の有効活用や大学発新事業の発掘・支援等における連携により、産学連携がより一層推進されるものと期待しています。



覚書を取り交わす川村センター長(左)と川又支店長(右)

財務諸表等の開示

(財務課)

国立大学法人法に基づき、平成 23 年 10 月 14 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 22(第 7 期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を、本学ホー

ムページ(http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/22.html)に登載しましたので、お知らせします。

道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を開催

(総務課)

10 月 26 日(水)、本学が当番大学として道内国立高等専門学校長と道内工学系大学長等との懇談会を本学第 2 会議室で開催しました。15 回目を迎える本懇談会は、高等専門学校及び工学系大学が抱える共通の諸課題について協議するとともに、広く意見及び情報の交換を行うことを目的として開

催されており、懇談は 6 つの話題をテーマに行われました。

本学の取り組みについて、田牧純一副学長から現状報告が行われ、各高専・大学からも特色ある取組内容の紹介があり、活発な意見交換が行われました。



各高専・大学の諸課題について協議を行った懇談会

平成 23 年度防災・日本再生シンポジウムを開催

(総務課)

11月18日(金)、国立大学協会との共催で、防災・日本再生シンポジウム「寒冷地の複合災害－豪雪と大地震が同時に来たら－」を開催しました。

このシンポジウムは、3月11日の東日本大震災を教訓とし、講演およびパネルディスカッションを通じて、オホーツク地域を大規模地震および豪雪等の複合災害が襲った場合の防災対策を再確認することを目的とし実施したものです。

シンポジウムでは、防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの佐藤篤司研究参事の「豪雪と地震」と題した基調講演及び、帯広畜産大学の宗岡寿美准教授、日本赤十

字北海道看護大学の尾山とし子准教授、東京農業大学の黒瀧秀久教授、本学の山下聡教授、高橋修平教授、高橋清教授の6名から、農業、医療、漁業、工学のそれぞれの専門分野から防災対策について講演いただき、行政機関や企業関係者をはじめ、市民・学生など約100名が参加しました。

さらに、パネルディスカッションでは、北見市防災対策・危機管理課の千田久幸係長も参加し、防災対策について活発な意見交換が行われ、防災マップの重要性や、複合災害には大学・北見市・市民・学生等が複合体で総合的に対応しなければならないとの提言がありました。



講演する佐藤防災科学技術研究所
雪氷防災研究センター研究参事



パネルディスカッションの様子

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

(総務課)

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が 11 月 22 日（火）午前 11 時から第 1 会議室において挙行されました。

鮎田耕一学長から被表彰者に対し、表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、下表のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者（50 音順）

30 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
堂 田 誠 治	技術部
中 西 喜美雄	技術部
布 川 裕	技術部
早 川 博	社会環境工学科
藤 田 美代子	企画広報課

20 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
阿 曾 正 浩	共通講座
遠 藤 登	機械工学科
亀 田 貴 雄	社会環境工学科
川 村 武	電気電子工学科
武 山 眞 弓	電気電子工学科
遠 国 秀 昭	技術部



地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(研究協力課)

11月28日（月）、北見工業大学地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催しました。本会議は、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱して、産学官連携に関する協議・情報交換等を行っています。

今年度は「地域資源を活かした『ものづ

くり』の取組の動向」をテーマとして北海道オホーツク総合振興局が開催するオホーツク地域経済活性化検討会議と初めて合同で開催し、多くの関係者が出席する中、各自治体からは地場製品の紹介や地域資源の活用事例の報告等があり、各大学からは人材育成事業等の地域との連携事例や活動報告、包括連携協定締結機関や公的機関等からは事業促進のための補助事業等の情報提供がありました。



会議の様子

大学院進学説明会を開催

(入 試 課)

平成 23 年 11 月 30 日 (水)、学部 3 年次学生及び希望者を対象として、大学院進学説明会を開催しました。

本学大学院工学研究科博士前期課程では、平成 25 年度入試において募集人員及び選抜方法等の変更を予定しています。今回の説明会では入試課職員から変更後の募集人員や選抜方法、スケジュール等につ

いて説明し、107 人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

なお、平成 24 年度大学院入試 (第 2 次) の出願期間は平成 24 年 1 月 16 日 (月) から平成 24 年 1 月 20 日 (金) までとなっています。受験希望者は期間中に必要書類を入試課まで提出してください。



入試課職員による説明



説明に聞き入る参加者たち